

日光市文化会館等あり方検討市民委員会 会議録

件名	第1回日光市文化会館等あり方検討市民委員会		
日時	令和4年7月25日(月曜日) 10:00~11:45	作成日	令和4(2022)年8月1日
場所	日光市役所本庁舎 1階 市民ホール	記録者	資産経営課 江連 嘉一
出席者			
<日光市> 粉川昭一市長(挨拶のみ) 鈴木和仁財務部長 植木修一資産経営課長 高野充博資産経営課長補佐兼公共施設マネジメント係長 松本孝財務部参事兼財政課長 手塚克英生涯学習課長 高橋英樹商工課長 小松竜也観光課長補佐兼観光振興係長 高梨一己中央公民館館長 石崎貴久中央公民館公民館係長 資産経営課公共施設マネジメント係職員		<出席委員> 高橋 満(委員長) 和久 文子(副委員長) 岸野 稔 庄田 哲康 高橋 祐也 篠原 久生 宮脇 強志 大藤 美由紀 堀田 要 (敬称略)	
議事内容			

■配布資料

- ・ 次第
- ・ 日光市文化会館等あり方検討市民委員会委員名簿
- ・ 日光市文化会館等あり方検討市民委員会総合アドバイザープロフィール
- ・ 日光市文化会館等あり方検討市民委員会設置要綱
- ・ 第1回日光市文化会館等あり方検討市民委員会資料
- ・ 今市文化会館ホール利用状況資料

■議事録

1. 開会

2. 市長あいさつ

「皆さまおはようございます。日光市長の粉川昭一でございます。第1回日光市文化会館等あり方検討市民委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、公私ともにご多忙のところ、委員をお引き受けいただき、改めて御礼申し上げます。また、本日ご出席いただいております東京都立大学の山本教授には、当委員会の総合アドバイザーをお引き受けいただき、誠にありがとうございます。今後、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、本市では、平成27年度に「日光市公共施設マネジメント計画」を策定し、次の世代の負担を減らす適正な公共施設を目指すため、「コストを圧縮する」、「ハコモノを減らす」、「サービスの最適化を図る」の3つの基本方針のもと、公共施設の有効活用や改善に向け取り組んでまいりました。

その中でも、文化会館等3施設は、モデル事業の1つに位置づけ、先行して耐震基準を満たしていない日光総合会館及び藤原総合文化会館について、関係団体の方々に組織された専門部会を設置し、施設のあり方についてご意見をお伺いしたところであります。

また、今市文化会館は、築44年が経過し、老朽化も顕著になってきたことから、大規模な改修が必要な状況となってきております。

文化会館につきましては、市民の皆さまの関心も高く、日光、藤原の専門部会で先行してご協議をいただいた内容を踏まえ、日光市全体の文化会館等の施設はどうあるべきか、早期に方向性を定めることが必要と捉えております。

このため、文化会館に関するこれまでの検討内容や市の財政状況などをお伝えし、市民の皆さまのご意見を頂戴したく、この市民委員会の設置をさせていただきました。委員の皆さまのご意見を伺いながら、市としての方向性を定め、協議とまた議会等との協議を重ねてまいります。

皆さまから、ぜひ、それぞれの忌憚のないご意見をお寄せいただきまして、文化会館の方向性を見いだせればと思っておりますので、これからも皆さまのご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。」

3. 部会員・アドバイザー紹介

- 出席委員から自己紹介
- アドバイザーの紹介及び挨拶
- 事務局自己紹介

4. 委員長・副委員長の選任

●委員長及び副委員長選任については、日光市文化会館等あり方検討市民委員会設置要綱第5条により、委員の互選となっており、事務局案の提示が了承された。

●委員長については、文化会館は、市民の福祉の増進及び文化の向上を図るための施設であり、また、市民の関心も非常に高いものと捉えられ、日光市全体に関わる案件であることから、日光市自治会長連合会副会長（会長職務代理者）の高橋満氏を事務局案として推薦し、委員の異議なしにより選任された。

●副委員長については、日光市教育委員会主催小・中学校「日本の伝統技術鑑賞教育・邦楽スクールコンサート」、文化庁「伝統文化こども教室」「学校への芸術家派遣事業」「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」に携わり、市の文化事業に長年尽力され、文化芸術に高い見識を持たれている日光市文化協会会長の和久文子氏を事務局案として推薦し、委員の異議なしにより選任された。

○高橋満委員長挨拶

「大変僭越ではございますが、皆さまのご意見をお聞きしながら、ぜひ、より良い方向性を見出したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○和久文子副委員長挨拶

「私も同じく、大変僭越ではございますけれども、私たちにとっても大変重要な案件でございますので精一杯務めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。」

5. 議事

○委員長（議長）

「それでは、委員長として議長役を務めさせていただきますが、まず現在出席をいただいております委員の数は、「9名」で、定足数に達しておりますので会議は成立いたします。

これより会議次第に基づき議事に入りたいと思いますが、その前に、事務局から何かありますか。」

●議事に入る前に、日光市文化会館等あり方検討市民委員会設置要綱第9条に基づき、次の2点について事務局より提案あり。

(1) 会議の公開・非公開について、できるだけ自由に発言できる環境を設けるために、今後開催される会議も含め非公開とすることの提案があり（ただし、意見等については、個人が特定されないよう公表される。）委員の異議なしにより決定した。

(2) 会議議事録の議事録署名人2名の選任依頼があり、委員長の指名により高橋裕也氏、堀田要氏の2名が選任された。

○委員長（議長）

「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。（1）日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について、事務局より説明をお願いします。」

(1) 日光市文化会館等あり方検討市民委員会の役割について

●事務局より第1回日光市文化会館等あり方検討市民委員会資料2～3ページを用いて説明。

●質問、意見等なし

(2) これまでの検討状況について

(3) 市の財政状況について

(4) まとめ

○委員長（議長）

「それでは次に、これまでの検討状況についてですが、関連がありますので、(4)のまとめまで事務局より説明願います。」

●事務局より第1回日光市文化会館等あり方検討市民委員会資料2～3ページを用いて説明。

○委員長（議長）

「ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。」

○委員A

「確認をさせていただきたいのですが、7ページの①の“まずは、日光総合会館を解体し”から始まる1文で“渋滞対策に”とありますが、私は日光総合会館の専門部会にも参加しておりまして、日光総合

会館と渋滞対策の話と一緒にしないようにとお願いをしたところなのですが、この資料に掲載されています。最終的に提言書に書かれているかどうかまでは分かりませんが、会議の中では切り離しましょうという流れになった記憶があります。（日光総合会館専門部会）の議事録を見てもらえば分かると思うのですが、その辺を確認させていただきたいと思います。」

○事務局

「提言書の中に、駐車場機能についてという記述がございまして、大谷川河川地や東町内に駐車場を整備した方が良いという意見も考慮しながら、駐車場機能の強化である台数の増加につきましては、将来的な社会動向も踏まえ、慎重な検討を求めたいという意見をされておられる中で、駐車場機能は必要であるということから、台数の増加を前提としつつ、コストや利用方法を勘案し、現在の平面式のほか、多層式についても検討されたいというご意見もいただいたところでございます。」

ただ、今回の駐車場につきましては、これで整備をして終わりということではなくて、暫定的に建屋があり解体した部分は平場の駐車場として活用させていただきたいという内容でございます。」

○委員A

「日光総合会館の検討委員会の時に発言したかどうかまでは覚えておりませんが、現在の日光総合会館の建屋の下に地下駐車場がございまして、建屋を壊しても駐車台数がほとんど増えないと思うのですよね。そんな意味もありまして、駐車場にすること自体は反対ではないのですけれども、何かちょっと違うのではないかと、“渋滞対策”というものをできれば抜いてほしいなと思います。例えば、200台多く停められるようになったとしても、渋滞対策の助けには一切ならないと思います。その関係で“渋滞対策”という言葉に敏感になっているところがあるのですけれども、その辺はいかがでしょう。」

○事務局

「誤解が生じてしまうと申し訳ないのですが、（建屋を）壊した後、提言書の内容をもとに日光総合会館の本格的な跡地利用を考えていくわけなのですけれども、まずは、一時的、暫定的な対応として渋滞対策に繋げるというよりは、渋滞緩和の一助になればということで、利活用を進めるというようなかたちで考えておりました。」

そのため、（日光総合会館の）敷地を1回きり活用するとなると、擁壁を組むなど相当な工事費を要しますけれども、今回については、簡易な対応をして飽くまでも暫定的に駐車台数を増やすことを考えております。現時点での試算は、地下駐車場部分も含めて（現在）停められる台数の1.3倍くらいに増える見込みとなっております。恒久的にこの部分を駐車場にするという考えはないということで市としては考えているところではありますが、資料について誤解を招くようであれば、今後につきましては、修正をしたいと考えています。」

○委員A

「駐車場という部分にアレルギーはないのだが、渋滞対策という部分が気になるということです。」

○事務局

「確かに根本的な渋滞対策の解消には繋がらないと思いますので、あまり期待を持たせないような表現に訂正させていただきたいと思います。」

○委員A

「よろしくお願いします。」

○委員B

「この検討委員会は、“日光市文化会館等”なのですね。この資料を見ますと、4 ページに工程というものがありまして、日光と藤原は、この工程で良いと思うのですね。ところが、今市については、日光（総合会館）と藤原（総合文化会館）のような専門部会は、確認したこともないし、聞いたこともないのでですね。それが同じようなかたちで載ってきている。しかも、これまでの検討状況で、9 ページの今市文化会館については、市民委員会だとかそういったようなものがない。だけれども、ここに並列に突然出てきてしまうのですね。そうしますと、例えば、日光であれば 15 名の委員が 5 回に渡って山本先生や西尾先生に助言をいただきながら検討してきて提言書としてまとめたわけですね。

今市に関しては、そういったものをやっていない。そういった中で、3 つが同じようなかたちで出てきてしまうわけです。例えば、委員名簿で文化協会に関しては、今市、日光、藤原とちゃんと出てきている。自治会とすると日光と藤原の委員さんについては、各専門部会から出てきているが、自治会長連合会から出てきている高橋満さんは、今市地域の委員としてではなく、日光市全体として出てきているのですね。どうもそのあたりが、今市文化会館に関して、数十年間使ってきた旧今市市民の方達の意見が何も出てきていない。それを突然我々が新しい日光市全体として今市の文化会館を考えましょうということになりますと、おかしいのではないかと思うのですね。

我々が今市の文化会館を老朽化したから潰したほうが良いというようなことになった場合には、旧今市の方にとっては、非常にまずいのではないかと思います。日光、藤原のように、地道に今市文化会館についても、旧今市の方がどう思っているのかということのをここで示していただかないと、始まらないと思うのですね。飽くまで今市文化会館については、庁内で検討を行っているわけですよ。日光と藤原のように、同レベルの（協議をした）ものとして出されてしまうと、誤解が生じてしまうのではないのでしょうか。

ですから、例えば、（今市地域の）自治会長会には、5 地区の自治会長会がありますのが、その中で今市文化会館にどうなのだという話も一切ないわけなのですよ。ですので、この会議そのものが、急ぎすぎているのかなと私は思うのですね。今市の方々に半年くらい議論して、結論を出して、この委員会に（結果が）上がってくれば、かなりスムーズに進むのではないのかなと思うのですね。今市文化会館には、当時、東京からレコーディングに来るくらい素晴らしい残響がある施設だったことを知っている人や、愛着を持っている人は多数いると思うのですね。そういった人たちが今市文化会館についてどう思っているのかを、結果的に資料にあるように様々な欠点があるから仕方がないという話にもなるかもしれませんが、そのような検討における過程を省略してしまって庁内の検討結果だけをこちらに掲載して、3 つの文化会館を同じレベルで協議しましょうということでは、進め方としては、おかしいのではないかと思います。極端なことを言いますが、例えば、今市の検討が終わるまで間をおいて今市の人たちの考え方を確認すべきだと思うのですね。例えば、（旧）日光の人にとっては、今市の文化会館は今

市の文化会館であり、日光の文化会館として意識はしていないわけですね。この会議の議論のベースが3つすべて揃っていないのに、ここで検討しようとしている。それはおかしいと思うのですね。どのように考えていますか。

○事務局

「適切にご指摘だというように感じております。先日、まちづくり懇話会で日光（地域）の委員さんからも指摘を受けましたが、本来は、全体を考えた上で個別だというのが適切だったのではないかというご指摘もいただいております。4ページの工程表ですが、飽くまでも予定であって、本来は、日光、藤原の協議を行った後に、耐震整備がそれなりに認められている今市についても本来その時点で協議していくべきであったのだと思います。新型コロナウイルス感染症の影響などで進まなかった部分もあったのですが、今市文化会館の老朽化については、相当進んでおり、今市の文化会館のあり方を先行して実施した場合に、全体の文化会館の検討が遅れてしまうということが、物理的に厳しい状況であります。そのため、大規模改修が必要となってしまった場合には、一時休止せざるを得ない状況となっております。

全体の方向性を早急に定めるために、委員Bがおっしゃるように、今市の方の意見が反映されていないと、のちのち厳しい状況になってしまうため、ご指摘いただいた内容については、どのような方法で今市の文化会館に対する考えを整理していくというのは、これとは別に、検討させていただき、次回の会議にお示しできればと考えております。

難しい問題であり、どのように合意形成を図ればいいのか、何が適切なのかは分かりませんが、次回の会議には、その方向性についてお示しできればと考えております。」

○委員B

「私の考えはそうでありますけれども、結果的にその方が、（協議も）早く進められるのかなと思うのですよ。今市の方のご意見等も十分に伺って、それをこの会議に出してきてもらえれば、スムーズに行くのではないかなと思うのですね。よろしくお願ひしたいと思ひます。」

○事務局

「委員Bのおっしゃる通りで、意見の集約が（ボタンの）掛け違いで正しい方向に行かないことや、整理できないとなれば、問題であると思ひます。その中で、どのような方法があるかというところですが、まず、組織を作るとなると、厳しい部分も生じてくるのかと考えらえるため、現実論として利用されている方に意向を確認して、例えばその考えをこの委員会でお示ししながら今後の参考にしていくという内容で進めさせていただければ、組織がないにしても、今市文化会館を利用されている方の意見も反映できますが、そのような方向でいかがでしょうか。」

○委員B

「大変だとは思ひますが、丁寧にやっただければと思ひます。」

○委員長（議長）

「私は、自治会長連合会の正副会長という立場にもあるため、今市地域の5地区については、私の方で意見をまとめていきたいと思ひます。いずれにしても、きちんとした手順で進めていかないと、委員Bがおっしゃったように、この話が頓挫してしまうと思ひます。各5地区の自治会長に説明をしていた

だいて、また、事務局の方で、様々な主要な方々の意見を聞いていただき、文書等にまとめていただいて提出するというをしないと、この委員会自体が止まってしまうと思いますので、私の方でも動いていきたいと思います。」

○委員C

「10 ページに新たな文化会館を整備すると考えておられるようであるが、市民のアンケートや公聴会は実施していないのですか。この検討委員会で方向性を出してから市民の意見を聞くということですか。」

○事務局

「この委員会で意見をいただき、市議会の特別委員会で協議をさせてもらった上で、市で方向性を示させていただきます。それを市のホームページや組回覧などで市民の方々に広く周知して、ご意見をいただきたいと考えています。様々なご意見を伺うために、チャンネルを広げながら、最終的にその中で決定していかなければなりませんので、ただ、公聴会という大きな場が必要なのかについては、今後の検討になるかと思われませんが、この委員会で出た意見やそれに対して市はどう考えるか、それを議会と協議を通じてある一定の方向性を示してそれをこの委員会にフィードバックし、その結果を市民にお知らせしていくといった流れでコンセンサスを得ていきたいと考えております。」

○委員C

「ある程度方向性を出してから、市民の意見を聞いていくということですね。今まで意見を聞いたりとかはないということよろしいですね。」

○事務局

「おっしゃる通りで、一定の方向性を示した上でそれに対してどのような意見があるかをお聞きしたいと考えております。」

○委員C

「この問題は、市民としてもかなり関心の高いことですから、ある程度、市民の意見も聞いた方が良いのではないかと考えていました。それまでに（確定する前に）広報などで出すということですから、それはそれでよろしいのではないかと思います。」

○委員D

「資料を見る限り、基本的に“ハコ”を造るか造らないかの話しかないと思っておりまして、今回造るのは文化会館なのですよね。実際にどのようなかたちでこの施設を使っていくのかが全く見えていないのですが、日光市には、文化芸術に関わるものをまとめる若しくは方向性を決める部署はあるのですか。」

○事務局

「施設のあり様については、より多くの人が集まる施設を造るべきではというご意見があります。今現在 500 席ということで整理はしておりますけれども、説明の中で申し上げたとおり、500 席ありきではなくて、日光という土地を活かして、観光客の方が来られる施設も必要なのではないかとご意見も

伺っております。

このため、この検討委員会の委員としても、商工会議所の方や観光協会の方も入っていただきまして、また、文化という本質的なところもずれないように、文化協会の方には多く入っていただいた構成となっております。

いずれにしても、どういう施設であるべきかという皆さまのご意見をいただきながら、これから決めていくということで、文化会館をどうするか、どのような施設にしていくかについては、今のところ、市では用意をしていない状況で、既存の文化会館をただ引き継ぐだけではなく、人口減少の影響や、観光地という立地を活かした上で、どのような施設にしていくことが適切なのか、どこに造るべきなのかを、皆さまのご意見を伺いながらその方針を定めていくための委員会ということでご理解いただければと思います。」

○委員D

「質問の仕方が悪かったかもしれませんが、日光市の文化行政として実演系の芸術については、方向性が見えないと思えます。以前、公共施設文化協会主催のセミナーを受けた時に、ある温泉地（の町）で、平田オリザさんという演出家が芸術監督のようなかたちで就任しまして、その温泉地に行政が劇場を造りました。演劇については、1〜3ヶ月ほど1つの劇場を使い続けていくのが一般的でして、その演劇を目当てに訪れる観光客もいますし、学校教育の一環として芸術鑑賞会で訪れる方や、ロングランで3ヶ月ほど劇団員の方がその地で生活する中で、ワークショップを行い、舞台芸術を活用した教育を行うということを実施し、（結果として）町の人口が増加したという事例がありました。

そのようなかたちで、日光市に関しましても、これから次代を担っていく若い世代が、日光市に残る若しくは外から来るようになると思います。

そのためにも、やりたいことがしっかり明確に決まっている人が方向性をすべて決めて、その人が進めるくらいの方を選出していくことが良いと思います。」

○事務局

「日光市の文化振興行政を担当しているのが生涯学習課になります。その中で、文化振興事業ということで、いくつかの事業を行ってきております。その中でも、こちらの委員会の中でも代表者の方に参加してもらっております、文化協会のお力を借りまして市民の文化祭を開催といったかたちで、市民の皆さまが色々な文化に携わっていただき、教養を高める、心を豊かにして過ごしていただくということで市を豊かにするということを進めていこうとしているところでございます。

その中でも、子どもたちの未来にという部分もあったかと思うのですが、子どもたちへの文化振興ということも含めて、移動美術館（を実施し）、小学校の希望に応じて各学校で、美術館などに移動をして現地で見えていただくということを行ったり、日光の文化財となっているところを訪れたり、あとは、日光市に小杉放菴記念日光美術館といったところを子どもと一緒に観て回ることで、文化の振興に努めているところでございます。その他、ふくろうの森石彫館といったところもリンクさせながら市の美術鑑賞というものを市民に広げたいと考えております。

最後に専門的な部分については、市の職員だけでは難しい部分もあり、小杉放菴記念日光美術館の学

芸員の方のお力を借りながら、子どもたちの移動美術館の実施などを行っているといったかたちで、市の文化振興を進めているというところでございます。そういったことを継続しながら今回の文化会館の部分もでございますけれども、より良い形で市民の方々が文化会館を活用していけるように皆さまからもご意見をいただければと考えております。」

○委員D

「分かりました。芸術鑑賞会などを見ても観るだけなので、それに対して参加をさせるような使い方、子どもたちが自分たちで行うワークショップ。例えば、大人の吹奏楽団に混ざって演奏するだとか、そういった使い方を行おうとした場合に、500席程度の想定となっておりますが、ホールの規模としましては、現状の文化会館と同程度の規模が必要となるかと思えます。

結局、今までのお話を聞いたところ、使い方は市民の皆さまにお任せしますよ。我々は造るだけです。市としては、文化的なもの、事業に関しては、方向性を示しませんよというかたちで受け取らせていただいたのですが、嫌な言い方になってしまいますが、そのようなことで問題ないでしょうか。

○事務局

「誤解が生じているようですので（ご説明させていただきます）、答えになるかわかりませんが、3ページにスケジュールがあります。これは、タイトなスケジュールですので、もっとずれ込む可能性があります。第4回に文化会館に求めるものについてご意見をいただこうと考えております。その中では、どのように使っていくのか、市が“ハコ”だけを造るのではなくて、その施設に何を求めるのかが重要だと捉えております。それによっては、将来的には、人的な担保も必要となってきたり、それなりな規模が必要となってきたりすることもあると思えます。500席というのは、誤解のないように申し上げますが、飽くまでも試算上のものに過ぎませんので、今後、皆さまのご意見をいただきながら決めていくということでご理解いただければと思います。

少し先の話しにはなってしまいますが、求めるものというのを決めた上で、どのような文化会館にしていくのか、それに対して、どのような人的な補充が必要なのかも含めて皆さんのご意見をいただきたいと考えているところです。」

○委員D

「そうなりますと、建物を造ってそれをどうするかということになってしまうので、どういうことがしくて何を造りたいですというかたちではないのですね。」

○事務局

「建物を造るから何をやるのではなくて、何をやるから建物を造るという視点で皆さんのご意見をいただきたいと考えております。」

○委員長（議長）

「建物は、意見を聞いた上で必要に応じたものを造るという理解で委員Dもよろしいでしょうか。」

○委員D

「ありがとうございます。」

○委員E

「意見になりますが、文化会館は、市民のものであり、観光施設ではないから、その差別化はしたほうが良いと思います。何をしたいから文化会館を建てるわけではなくて、市民の文化レベルを上げるために建てるわけですから、そこで何をやるかは、各事業者などの好きにやれば良いと私は思います。

また、今回造るに当たって、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣との兼ね合いも非常に大きいのではないかと思います。そこでは、380席のキャパがあるわけですから、同じようなものを造っても仕方がないわけですからね。さらに言えば、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣は、駐車場が少ないというところが使いにくいというのがありますので、そこをてこ入れしても良いと思います。私は仕事の関係で月1回程度文化会館のような施設を使用しますが、あれほどの大きさはいらぬ仕事をしています。本当は、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣を使用したいのですが、駐車場が少ないから使えないのです。同じような考えの方は、（他の利用者の中にも）沢山いると認識していただきたいのがひとつあります。

それと、私もこの委員会の立ち位置が良く分からないというのがあり、私は、今市文化会館の専門部会だと思ってここに来ました。日光と藤原はすでにやっていますから。そしたらそうではないということなのですが、結果的に日光と藤原を廃止いたします。今市は古いから建替えるためにどうすれば良いかというのがこの委員会なのではという認識ではあるのですが、確かに、委員Aのおっしゃる通り、今市も意見を聞かないと、後で大変なことになってしまう可能性もあるので、そこは気を付けたほうが良いと思います。

これは、今回話すべきことではないとは思いますが、同じようなものがある場合にどう差別化するかというのは、次回の委員会を開催するときには、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣の利用状況ですか、利用者の方のアンケートなども踏まえて検討できればと思います。」

○委員F

「(11 ページの) 試算表については、概算ということで、物価高騰などの影響は考えていないとありましたが、7 ページにあるように、日光総合会館を解体し、その跡地に一時対策として駐車場を整備するとあります。日光市の財政状況が厳しいのは理解しているのですが、一時的・一時的ということで、当面の目的を持たずの駐車場を整備するというだけでも、歳出が発生すると思うのですね。なので、駐車場にした後で、ホール集会所機能の整備については、今後の方向性を定めるとありますが、定めながらも、建て壊しなどを同時に進めていかないと、同じところに2度も3度も費用をかけてしまい、結果的に無駄遣いをしてしまうのではないかと感じました。

また、10 ページの今市文化会館には、3つの案があります。建替えるためのお金、建替えた後に造るためのお金、改修をしたときのお金とありますが、建替えの際に係る壊すためのお金についてもセットで考えていかないと、想定より多くの費用が掛かってしまうことが分かり、いざ造れませんかになってしまうと、心待ちにしていたのに、思っていたものが出来なくて市民にとって残念な結果になってしまうということもあり得ると思いますので、壊す費用や、新しい土地を準備する場合には、新しい土地の取

得にかかる費用すべてを計上していただいた上で、概算で出していただいた方が進めやすいと思います
がどうでしょうか。」

○事務局

「おっしゃるとおりですが、まず、今市文化会館を直して使うべきなのか、それとも新たに造るべきなのかをまず決めたいと思います。その上で、（今ある今市文化会館を）壊すということになれば、そこでも相当な費用が掛かります。また、どこに造るかについても市の方で考え方を示そうと思っています。新しく購入すべきなのか、市が持っている土地にはどのような土地があるのか、解体した後に文化会館を造るのかなど、金額的なものについては、より具体的なものに近づけていきたいと考えています。今のところは、造るべきなのか、造らないほうがよいのか、先ほど、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣の話も出ましたけれども、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣をもっとバージョンアップして文化会館の替わりにという意見もあるかもしれません。そのようなご意見をいただきながら、市としては、新たに造るべきなのではと考えておりますけれども、皆さまは、そのような考えに対してどのような意見がありますかというようなものを、スタートとして決めた上で、会を重ねるごとに精度を上げていきたいと考えております。解体については、11 ページの注釈に約 2 億円とざっくりしたものは出ておりますが、飽くまでも概算ですので、方向性が決まったら、しっかりとした設計の費用を計上させていただきます、より精度の高いものとしていきたいと考えております。

○委員 F

「そのようなかたちで進めていただければと思いますのでよろしくお願いします。」

○委員 D

「文化会館の利用状況の資料についても質問なのですが、利用予定人数の集計が分かれば教えていただきたいと思います。実際に何人くらいの利用を見込んだのかが分からないと、実際にどのくらいの広さが必要としているかは見えてこないと思います。また、(3) の各種練習とありますが、リハーサルとしての練習なのか、単純に技術の向上目的としての練習なのか教えていただきたいと思います。それによって、何が施設に必要なのかが分かってくるかと思います。」

○事務局

「この集計の中で把握はしておりませんので、そのようなデータがあれば、後でお示ししたいと思います。」

○委員 D

「委員 F は、音楽関係のコンサートをされていると聞いていますが、ホールでコンサートを行う時は、会場で何日くらい練習をしますか。」

○委員 F

「会場での練習については、コロナ禍前で週 1 回程度利用していました。コロナ禍での利用については、月 1 回程度利用していました。」

○委員D

「(2)の集計で200人以下の推移としては、練習での使用について多く使われるものの内訳としては、委員Fのような利用があるため、多くなっていると思います。これを見て、200人以下の利用が多いから500人程度が適切であるというのはいかがでしょうかと思いました。そのため、仮定だとはしても可能であれば、概算の予算も800人、1000人、1500人でいくらからいというのも可能であれば今後出していただきたいと思います。」

○事務局

「費用についてじっくりとした計算については、技術担当等に確認してお示しできそうであればお示しますが、500人規模なのか800人規模なのかが、お金で決めるのではなく、目的で決めたいと思っています。」

○委員A

「委員Dと被りますが、今市文化会館ホール利用状況資料(3)にあるように、後援会・イベント等での利用は年に3割程度となっているため少ないでしょというように伝わってくるのですが、日光や藤原の会館が閉鎖されて、様々な団体が今市文化会館を利用するために予約をしようとするのですが、使いたい日にちは意外と皆さん一緒なのですね。ですから、決して足りているわけではないと思うのです。結果的に利用率が低くなっているようにも見えるのですが、希望者と利用率は別物であると思うのですね。結構希望者は多いと思います。学校の吹奏楽部演奏会を文化会館でやりたいけれどもどうしてもその日が取れないので、道の駅日光 日光街道ニコニコ本陣に行く場合もあると思います。それなので、希望者がどれだけいるかというのも調べていただきたいと思います。」

○委員長(議長)

「アドバイザーの先生から何かありますか。」

○山本総合アドバイザー

「文化は大事ですし、目的として造っていかねばならないことは分かっているのですが、例えば、試算だからいいのですけれども、11ページの今市の大規模改修と書いてあるところなのですけれども、これは、おそらく通常の技術的な空調を直すだけなので、多分、この当時出来た椅子席ですとかなり小さくて、今の体格や体形、高齢者の方に適用したスロープ等を考えると、もっと費用が掛かってくるかと思います。また、ここ2~3年の資材の値上がりが相当ひどいです。それから、労務費に関しても掛かってきて、令和6年から、大手の建設事業者はすでにやっているところもあるのですけれども、すべての建設事業者が週休2日制になって、おそらく労務費も上がり工期も長くなってきます。よって、この試算以上にかかなりの金額が掛かってくるという見通しは考えていただいた方が良くと思います。色々な意味で財政的な厳しさと同時に文化のあり方を皆さんで議論していただいて、やはりそれでもそれなりのお金がかかるという認識だけはしていただいた方が良くと思います。」

○委員長（議長）

「ありがとうございました。先生からのご意見もいただきましたので、それも踏まえながら進めていきたいと思えます。その他で事務局から何かありますか。」

○事務局

「特にありません。」

●委員長（議長）は、以上をもって全ての議事を終了した旨を述べた。

6. その他

●事務局から第2回の開催予定について連絡（9月中を予定）

以上（11時45分終了）

以上、本議事録の内容が正確であることを証するため、ここに署名する。

令和4年 8 月 10 日

議事録署名人 高橋 祐也

議事録署名人 堀田 亨